

2013 年度保護者満足度調査結果 結果報告

【実施時期】

2013 年 12 月下旬～2014 年 1 月 17 日締切〔〆切を 1 月 27 日（月）まで延長〕

【実施方法】

当該調査の調査票のみを全ての保護者の皆様に宛てて郵送。

回収は、返信用封筒による郵送または自宅学生による持参、インターネット上での回答。

【調査対象】

全学部学科（専攻）1～4 年次生の保護者 計 1,376 名

【回収率（全体）】

全体	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学年不明	合計
回答数	135	112	107	83	5	442
回収率	39.5%	32.3%	31.5%	23.8%	－	32.1%

※（学部不明回答）2 件あり。

2012 年度調査 回収率 426 件/31.4%

2011 年度調査 回収率 313 件/22.7%

【回収率（学部(学科)別）】

看 護	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学年不明	合計
回答数	60	44	41	26	3	174
回収率	39.5%	27.7%	27.7%	16.1%	－	28.1%

社会福祉	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学年不明	合計
回答数	13	9	13	7	0	42
回収率	37.1%	23.7%	31.0%	24.1%	－	29.2%

介護福祉	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学年不明	合計
回答数	3	3	5	7	0	18
回収率	21.4%	21.4%	21.7%	46.7%	－	27.3%

こども教育福祉	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学年不明	合計
回答数	19	10	14	10	0	53
回収率	40.4%	28.6%	35.0%	25.0%	－	32.7%

理学療法	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学年不明	合計
回答数	12	15	14	13	0	54
回収率	35.3%	38.5%	41.2%	37.1%	－	38.0%

作業療法	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学年不明	合計
回答数	20	15	15	10	0	60
回収率	57.1%	46.9%	44.1%	23.8%	－	42.0%

言語聴覚	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学年不明	合計
回答数	8	16	5	10	0	39
回収率	32.0%	53.3%	26.3%	37.0%	－	38.6%

インターネットによる回答は 36 件

【結果の概要】

設問項目ごとに「大変満足している」「やや満足している」の合計を算出し、その値を満足度指数とした場合、「大学に対する総合評価」は 92.0%と高い評価をいただきました。

しかし、項目別では必ずしも評価の高い項目ばかりではないため、満足度が低い項目については今後の対応（改善策）について検討しています。

また、自由記述としてお寄せいただきましたご意見・ご要望につきましては、すべてに回答することはできませんが、[質問・要望に対する回答]として 12 ページ以降に回答させていただいておりますのでご覧ください。

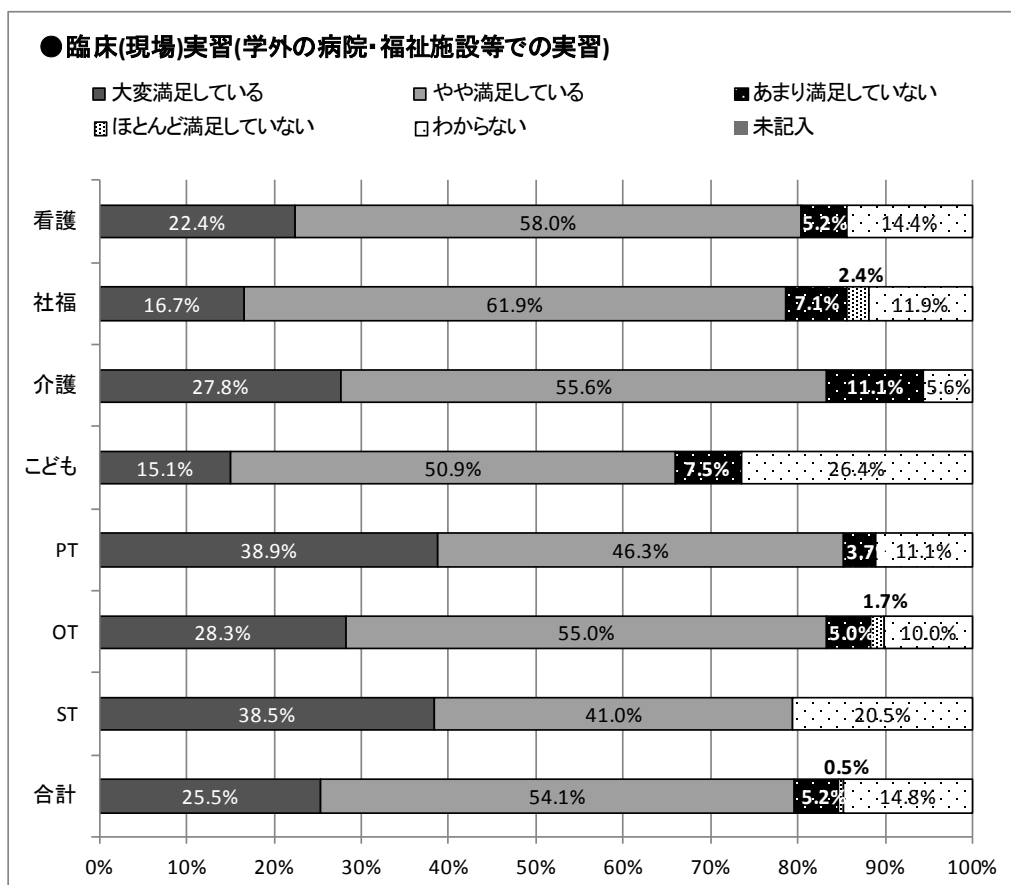
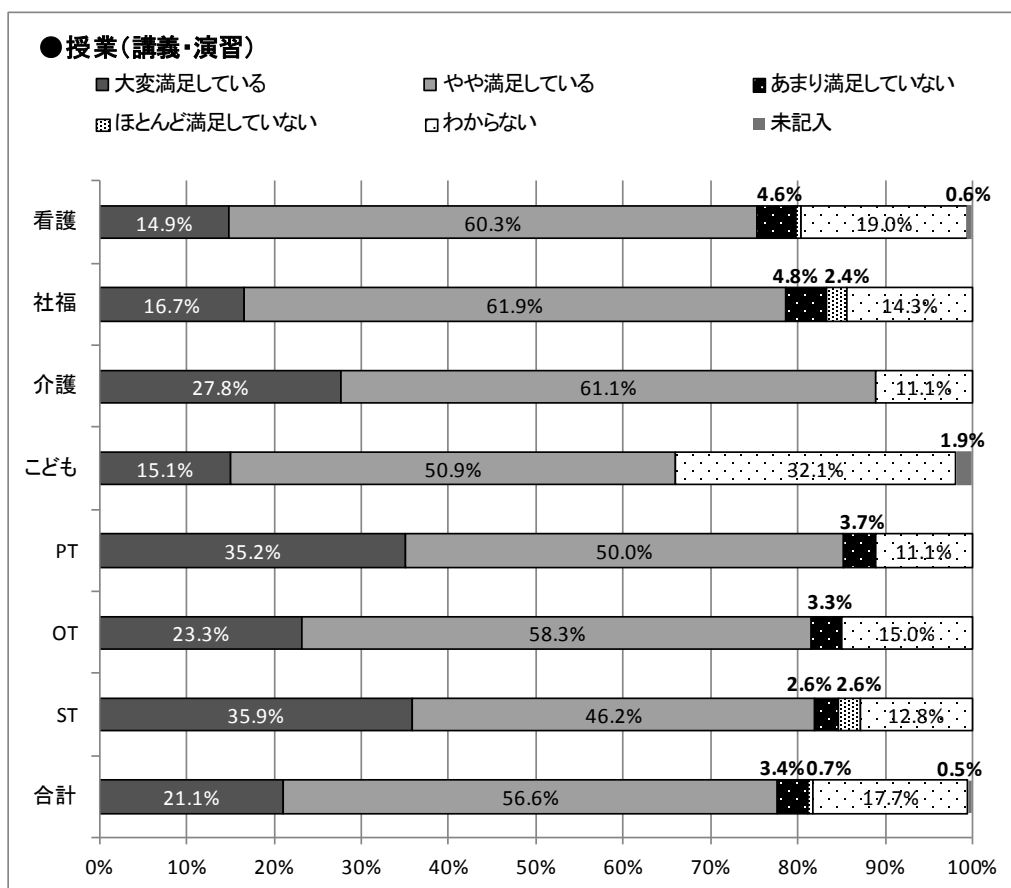
なお、回答率は 32.1%と調査開始年度に次ぐ多くの回答をいただくことができました。

お忙しいところご協力いただきまして有り難うございました。

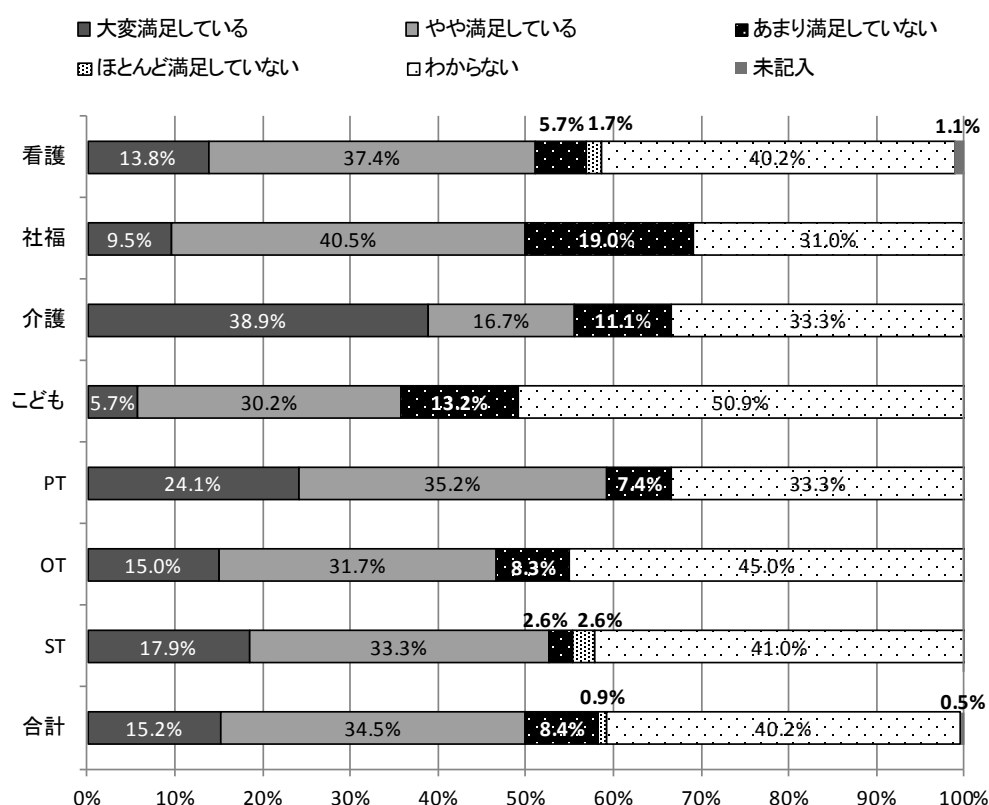
2014 年度も引き続き実施をいたしますので、より良い大学づくりのため、今後も保護者の皆様の忌憚のないご意見を是非お寄せくださいますようお願いいたします。

項目	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
大学に対する総合評価（進学させてよかったかどうか）	84.2%	95.2%	88.1%	90.3%	92.0%
授業（講義・演習）	64.0%	75.8%	72.6%	73.9%	77.7%
臨床（現場）実習（学外の病院・福祉施設等での実習）	64.9%	72.3%	74.0%	76.7%	79.6%
就職（活動）に対する支援・指導	43.7%	48.1%	55.8%	47.2%	49.7%
国際交流（海外研修・国際福祉実習等）	20.7%	28.0%	24.5%	29.5%	30.7%
心身の健康面に対する支援	52.6%	68.5%	62.0%	61.3%	64.7%
学生・保護者からの相談への対応	50.1%	69.4%	66.3%	59.6%	64.8%
奨学金・アパート・アルバイト紹介等学生生活に対する支援	43.7%	59.9%	52.4%	55.9%	58.9%
事故防止・防犯への対応	33.3%	52.8%	49.3%	56.4%	58.0%
教員の対応（2009 年度の設問は「アドバイザー教員」）	44.5%	70.7%	66.7%	69.8%	70.0%
事務職員の対応	55.8%	67.2%	62.7%	56.4%	62.9%
大学の施設・設備	77.2%	81.5%	76.3%	81.4%	82.1%
保護者として知りたい情報が大学から十分提供されていますか	60.6%	75.2%	74.4%	70.0%	77.9%

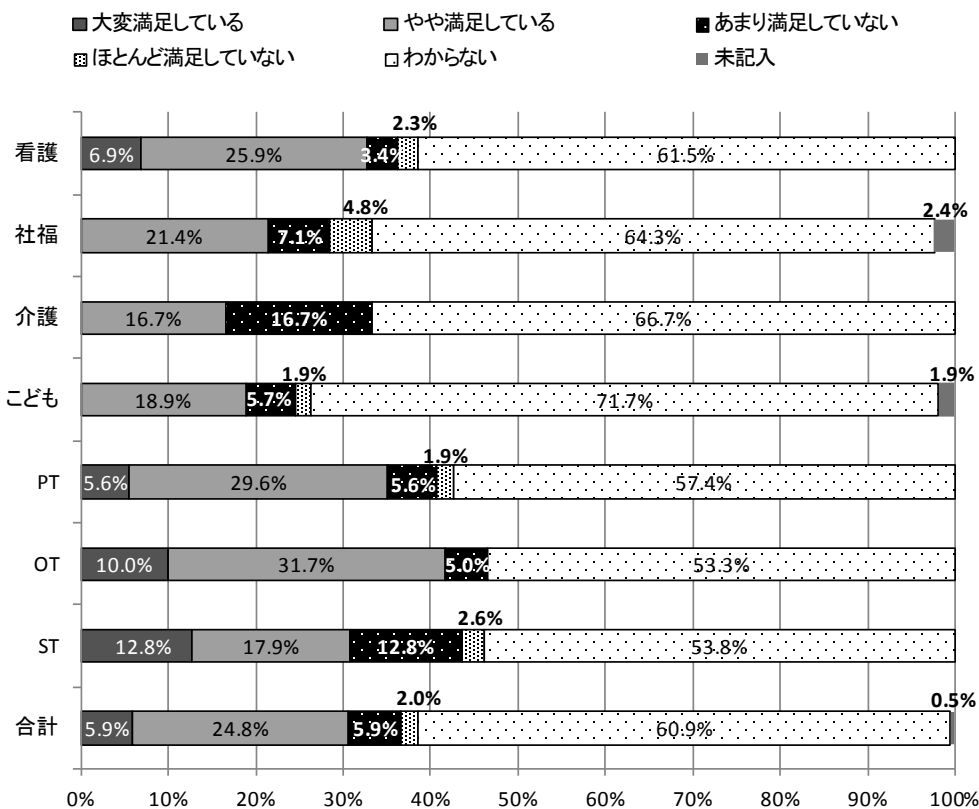
問. 大学の教育や学生生活等の支援について保護者として満足していますか。



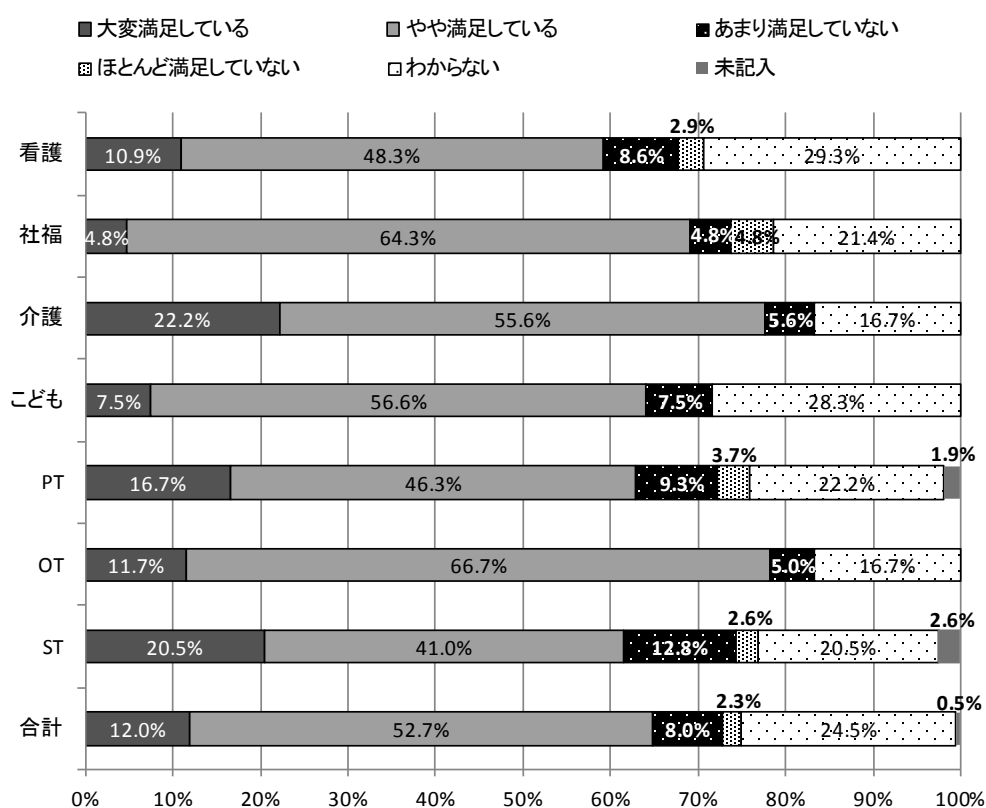
●就職(活動)に対する支援・指導



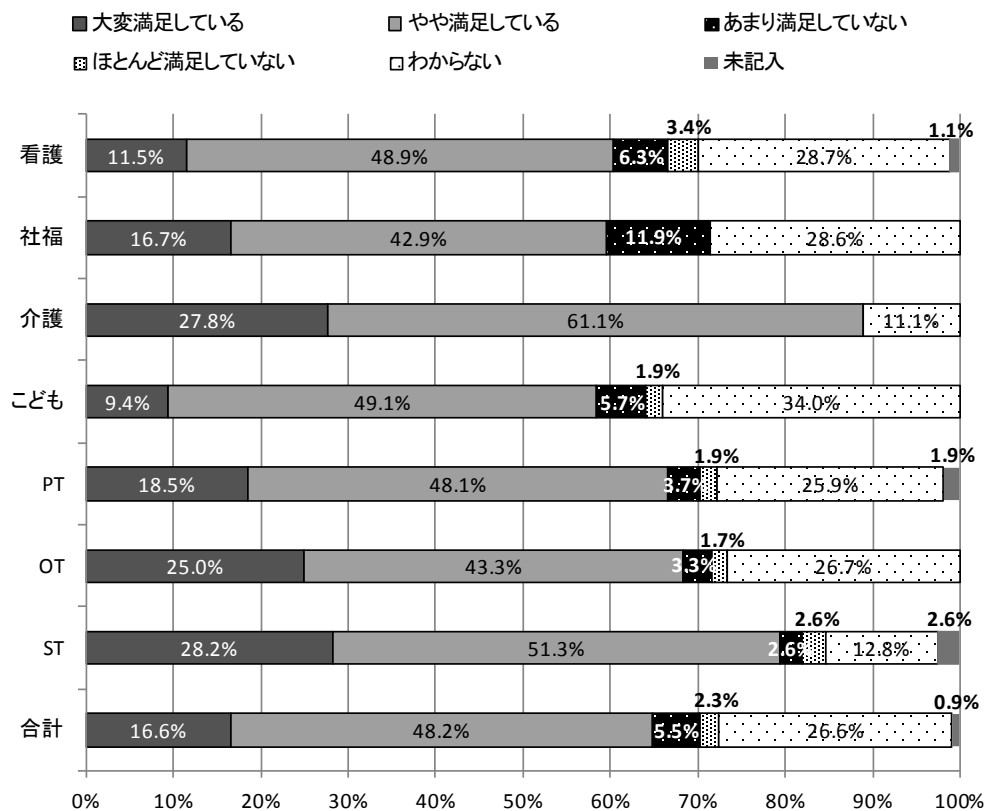
●国際交流(海外研修・国際福祉実習等)



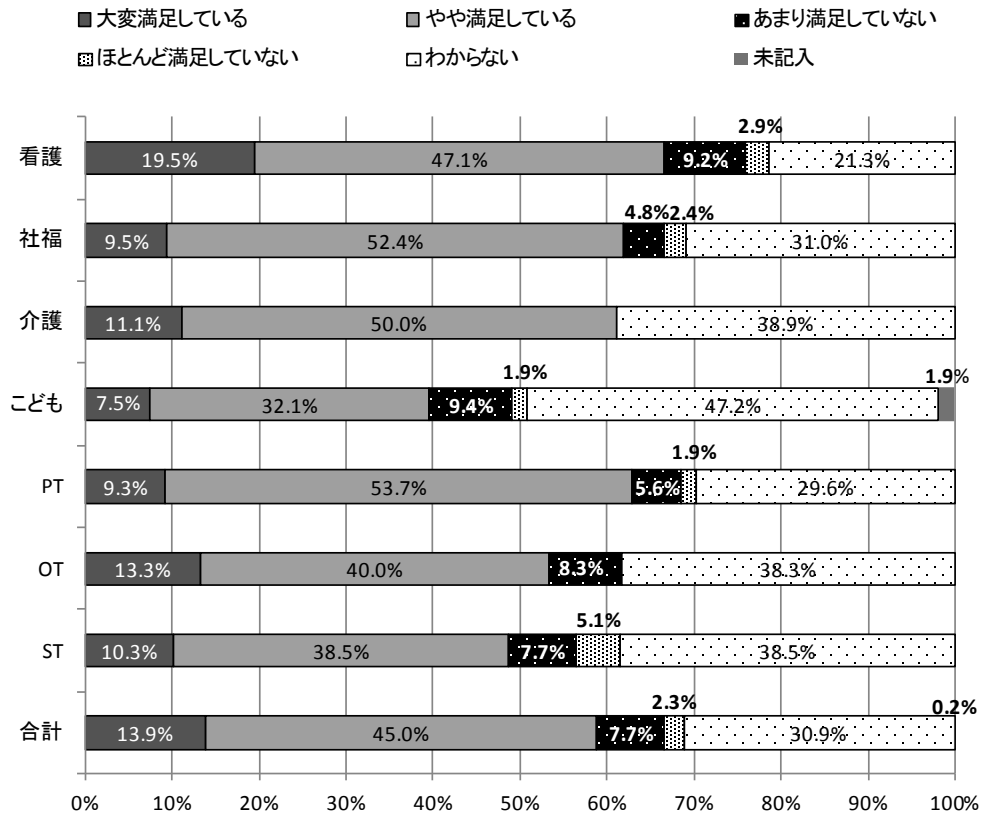
●心身の健康面に関する支援



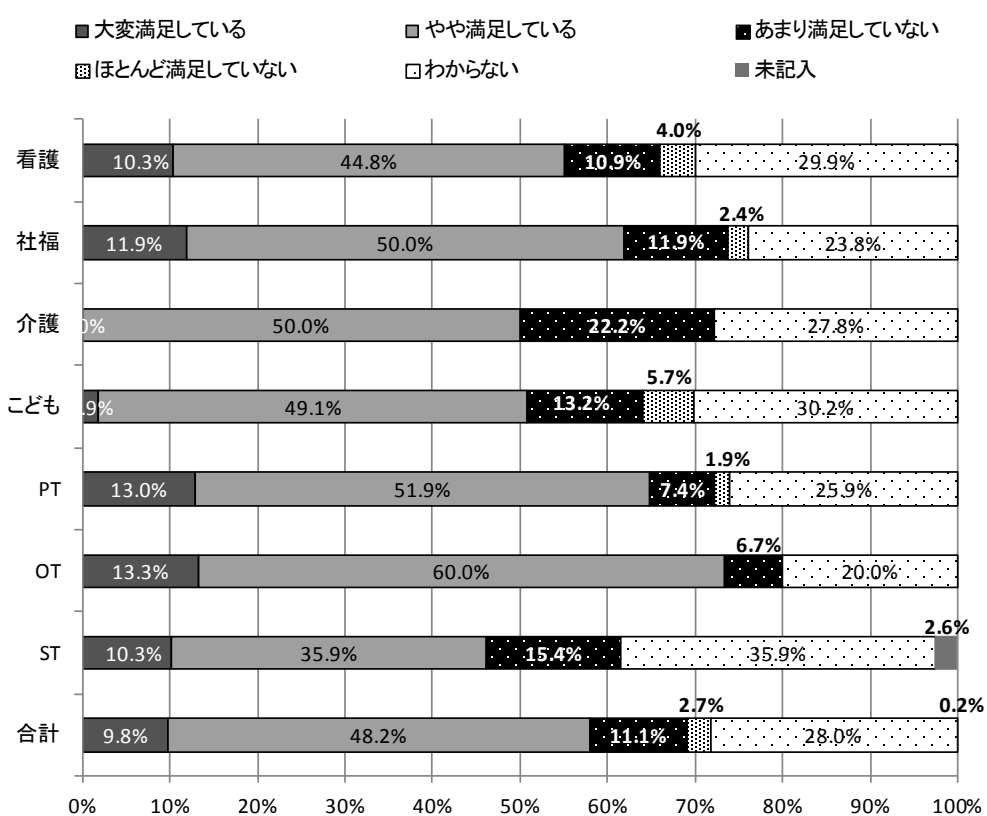
●学生・保護者からの相談への対応



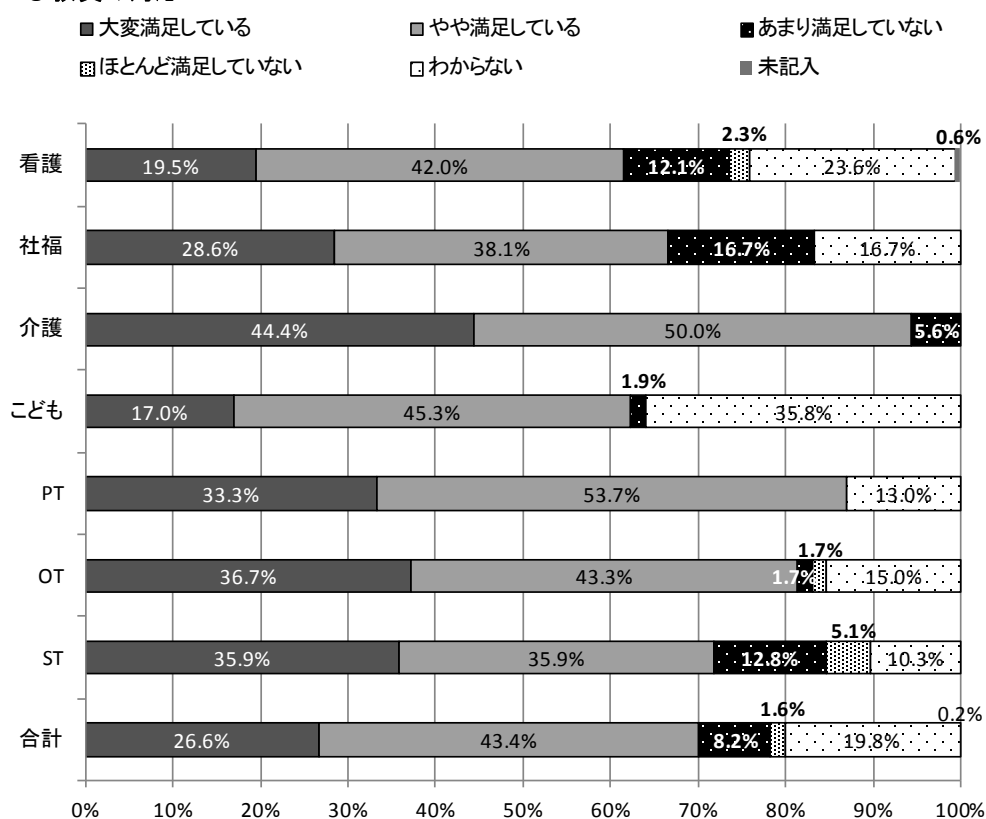
●奨学金・アパート・アルバイト紹介等学生生活に関する支援



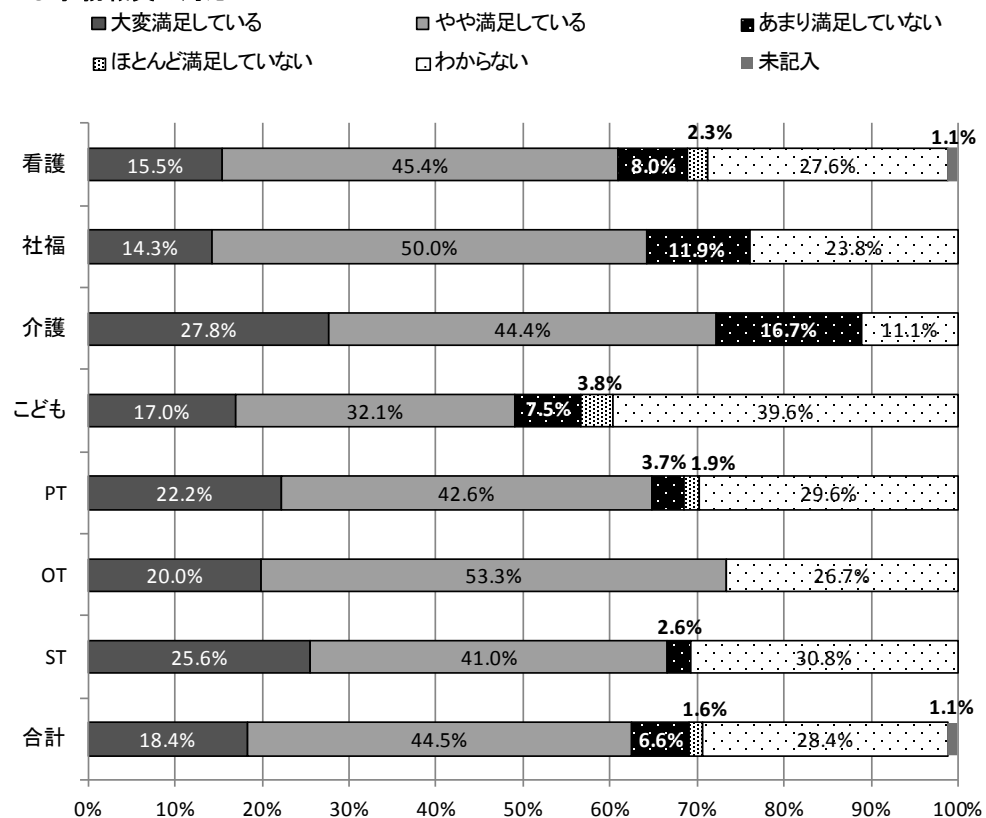
●事故防止・防犯への対応

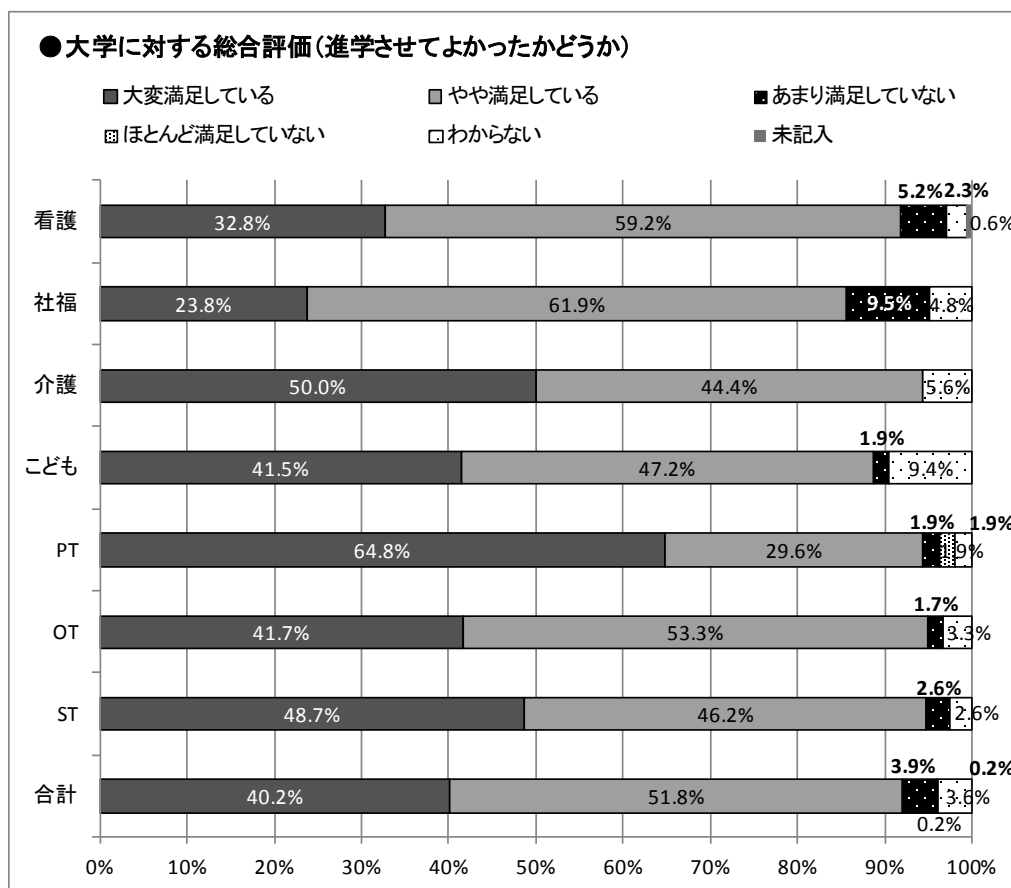
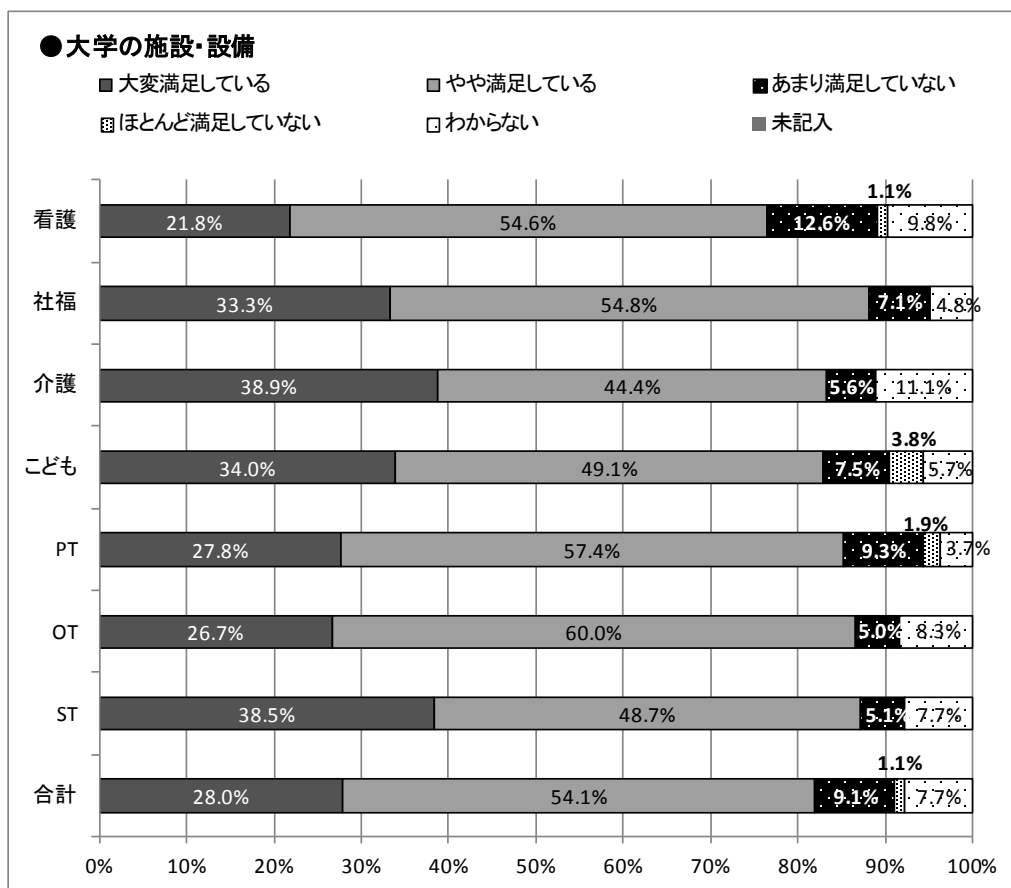


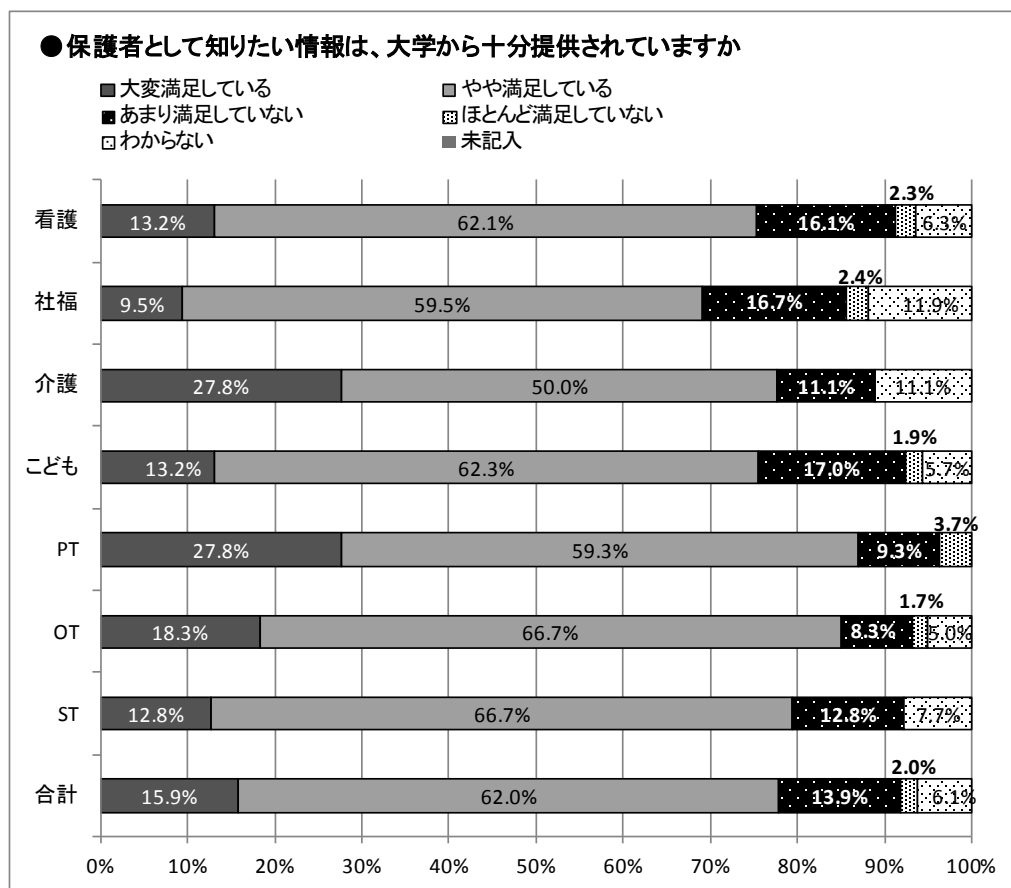
●教員の対応



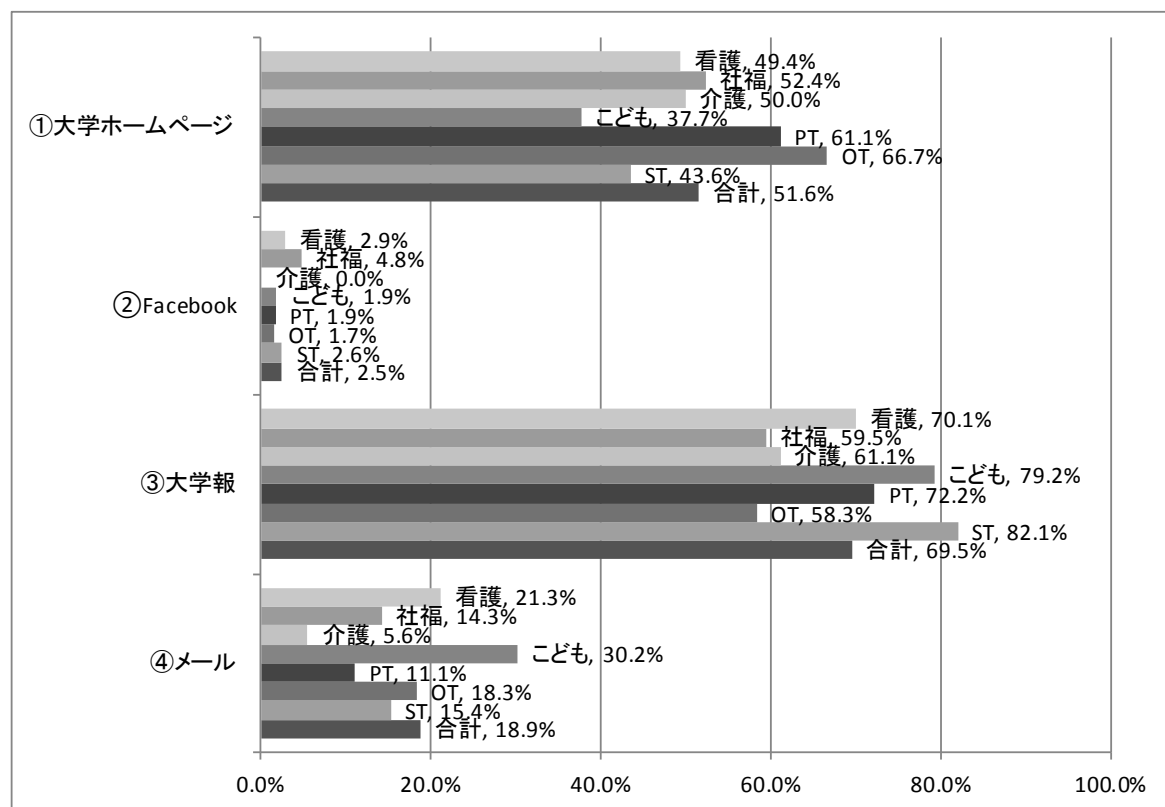
●事務職員の対応



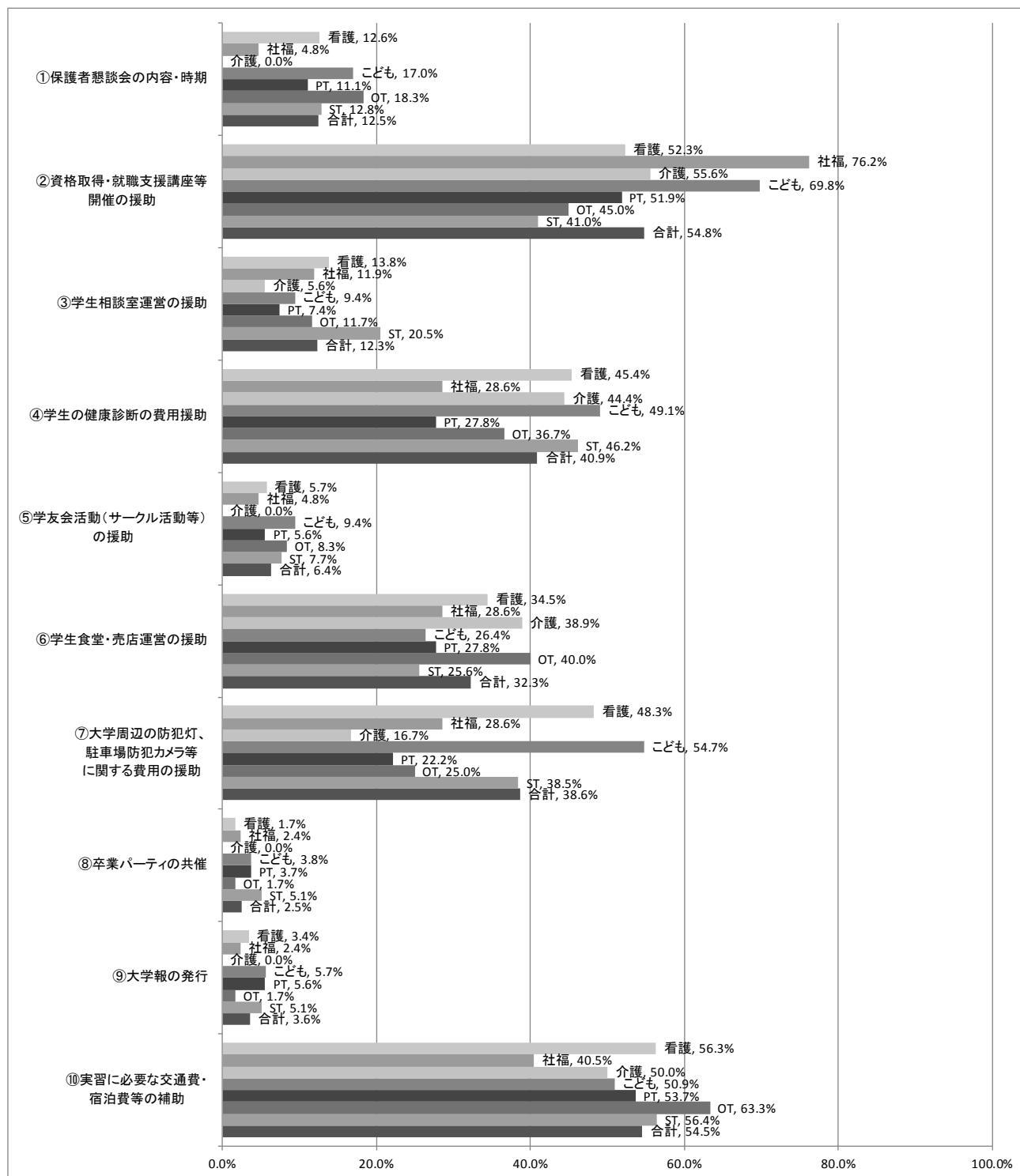




問. 大学から発信される情報を得るのに利用しやすい手段はなんですか。(複数回答可)



問. 後援会では下記事業を行っています、より充実させてほしいことは何ですか。(複数回答可)



2013 年度保護者満足度調査自由記述と質問への回答

2013 年度保護者満足度調査に多くのご質問・ご要望をお寄せいただきまして、誠にありがとうございます。お寄せいただきましたご意見・ご要望すべてに回答することはできませんが、[質問・要望に対する回答]として次ページ以降に回答させていただきます。

また、自由記述に本学の教育に対して好意的なコメントもいただきましたので一部ですが下記にご紹介いたします。

今後もよりよい教育を目指して取り組んでまいりますので、引き続きご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

[自由記述の一部の紹介]

- ・ 国家試験に向け、毎日勉強している娘を見て娘の成長も感じ、また支えてくださる先生方や一緒に目指して頑張っている仲間に出会えて感謝しています。聖隷クリストファーに進学したのはとてもよかったと思います。〔看護学部/4 年次生〕
- ・ 本人も私も聖隷で良かったと感じています。しっかりと教えていただいているようで安心です。大学生生活も楽しいようで高校時代よりも勉強と遊びの切り替えがうまくいっているようです。交友関係も広がり明るい性格になりました。〔看護学部/3 年次生〕
- ・ 地域に根ざした病院の中でもトップクラスの位置付けである「聖隷」というイメージを持つ方が非常に多い中、クリストファーの大学で学ばせていただける娘は、幸せだと思います。クリストファーの看護学部へ通っていると話せば、必ず「いい所だね」「良かったね」「これで安心だね」と声を掛けていただけることがとても多いです。〔看護学部/2 年次生〕
- ・ 学校生活がとても充実している様子をつねに聞いています。助産師になりたいと高い目標ができ、とてもがんばっている様子を聞くたびに入学させて良かったと思います。〔看護学部/1 年次生〕
- ・ 福祉への理解が深まっている様子が会話の中から感じる事ができ、うれしく思っています。〔社会福祉学部社会福祉学科/3 年次生〕
- ・ ハード面でも人的環境においても非常に恵まれたなか、4 年間で充分栄養をいただき、人間的にも随分と成長した娘を見るにつけ、この大学に進んでくれて良かったと主人共々心から満足しています。高校から連続でお世話になりました。〔社会福祉学部介護福祉学科/4 年次生〕
- ・ 生涯を通して相談出来る先生方や、良い仲間との出会いは何よりもの財産だと思います。本当にありがとうございました。〔社会福祉学部介護福祉学科/4 年次生〕
- ・ 就職先も決まり、4 年間お世話になりました。学校での情報は、保護者会で細かく知り得る事ができました。アットホーム的な感覚で学生生活を過ごせたと思っています。ありがとうございました。〔社会福祉学部こども教育福祉学科/4 年次生〕
- ・ クラスの雰囲気がとても良く充実した 4 年間で過ごせたようです。また、尊敬できる先生方に出会えた事でこれから社会に出てからもがんばって行けると思います。〔リハビリテーション学部理学療法学科/4 年次生〕
- ・ 同じ目的を持つ友人同志のつながりはもちろんですが、先輩からの助言等もあり、横だけでなく縦のつながりもあってとても助かります。少人数でやっていただける点もとてもありがたく思います。〔リハビリテーション学部理学療法学科/3 年次生〕
- ・ アットホームな雰囲気の中で、落ち着いて安心して学生生活を送っている様子がよく分かり、ありがたく思っています。〔リハビリテーション学部作業療法学科/1 年次生〕
- ・ まだ自分が目指す職業に進んでよいのか、自分に適しているのか、迷いもあるようですが、言語聴覚の先生方のその仕事に対する思いや、人としての生き方を尊敬する息子の様子を見ると、聖隷で学ばせていただいて良かったと心から思います。学生の時、尊敬できる人と出会うことができたことが何より幸せだと思います。〔リハビリテーション学部言語聴覚学科/3 年次生〕
- ・ 諸先生方、諸先輩、友人に恵まれ、充実した学生生活を送っているようで大変満足しております。〔リハビリテーション学部言語聴覚学科/2 年次生〕

【質問・要望に対する回答】

教育 学生支援 就職支援 施設・設備 情報提供

(1) 教育

【全学共通】

- (質問) ・授業中の私語が多すぎる。
・私語を注意してほしい。
・授業で代返・代筆があり、他の学生への迷惑となっている。
・授業中で眠っている学生、ゲームをやっている学生がいるようでもったいなく残念に思う。

(回答) 授業中の私語への対応は、大学として6年前から取り組んでいるところです。授業をする教員には、「私語攻略ハンドブック」(2008年4月全学FD委員会編)、「履修要項・IV 授業 9. 受講態度」を示し、私語に対する教員の心構え、授業準備、授業方法の工夫(2013年度は特に学生主体の授業展開を図り、アクティブラーニングを意識して課題や授業資料を作成し強化する)等を実行してきています。さらに、授業中の私語等の態度について調査し、SNSが授業中でも授業に関係なく使用されている状況がわかりました。2014年度は全学部で、SNSの授業中の使用についての注意を喚起することに取り組みます。

また、非常勤講師の先生への協力・呼び掛けを継続します。私語、居眠り、代返・代筆等の授業中の態度は、学生の皆さんにもあらためてほしい問題です。私語、居眠り、代返・代筆をしている学生さんのことを他の学生さんがとても迷惑だ、恥ずかしいことだ、なんとかしてほしいと思っていることをしっかりと受け止めることが大事になります。卒業に向けて必要な学業を修めるために真剣に授業に取り組むことが、学生さん自身が今後のキャリアにとっていかに大切であるかを自覚し、教員、学生さんともに充実した授業となるよう努力していきます。

- (質問) 共通科目について、履修したい科目が抽選によりとれないことがあります。

(回答) 履修者の抽選は、授業科目によって希望者がクラスの適正数を超える場合に行うことがあります。履修登録の結果によって開講クラスを増やす等して、できる限り抽選にならないよう毎年改善を図っています。また、抽選にもれると「履修ができない」のではなく、秋セメスターには履修ができます。大学としても、春と秋に履修者が分散して登録者全員が履修できるよう、講師の増員、クラスを増やす等の工夫をしています。

【看護学部】

- (質問) 質問を質問で返されることが多く、結局質問の答えがわからず終わってしまうことが多いようです。

(回答) 学生さん自身に考えて欲しいという思いから、そのような対応になってしまう教員がいたのだと思います。しかし学生さんの質問に対して考えるヒントを示し、一緒に考えていこうという姿勢で向き合っている教員も決して少なくないと思います。どの教員も質問した学生さんが最終的に理解できたのか、困ったままでいないかを確認していくようにします。

- (質問) 全員の教員ではないが、教育面、接し方についてバラツキがあるように思います。

(回答) 教員によって学生さんに対する教育指導や接し方に多少の差はあると思います。ただそれが学生さんの不利にならないようにする配慮はもちろん必要です。各看護学領域では定期的に領域会議を開き、教育目標や教育方法を検討し認識を一致させています。また、今年度より学生1人に対するアドバイザー教員を、今までの1人体制から2人にしました。それにより学生さんが教員のことで困った時に、今までより相談しやすくなると思われます。学生さんが不利益を被らないように、困ったことがあれば、アドバイザーや科目担当教員、学生委員、あるいは学部長に相談してください。

- (質問) 実技試験の前に、全体的見本を示していただきたい。

(回答) 1年次生で学ぶ看護の実技については、実技項目毎に教員が実演を示しています。今後は、より丁寧に実演を行い、その場での疑問点や不明な点は、学生さんがその場で確認できるようにします。また、授業時間外の実技の自己練習で生じた疑問にも、応えられるよう担当教員は指導体制を取っていますので、積極的に活用してほしいと思います。

(質問) **統合演習の実技テストの時期を変えてほしい。(国試の勉強もあって大変です)**

(回答) 第 8 セメスターは、国家試験勉強の追い込み段階となり、学生さんにとってはとても大変な時期だと十分に理解しています。統合演習の科目概要を見ますと、今まで学習した基本的な看護の専門知識と看護技術に関する能力の習得状況を明確にし、自ら克服すべき課題に対して取り組む内容です。そのため、第 8 セメスターに置かれていることをご理解ください。1 年次からの全ての科目が国家試験に関連していますが、計画的に国家試験勉強を進めるように、さらに助言していきます。

(質問) **実技テストの時間配分が短すぎるのでは。**

(回答) 実技試験については、今回ご質問の実技テスト時間配分も含め、予めその授業の初日に文書と口頭で学生全体に説明をしています。学生さんからの質問も受け付け、学生さんとの合意のもとで実施していますので、学生さんは理解していると思います。なお、今後は「時間配分が短すぎる」と感じた理由等について学生さんに確認し、改善していきます。

(質問) **実習室の練習使用可能な時間を延ばしてほしい**

(回答) 本学では、大学校舎の閉館時間(21 時)までは、他の教室と同様に看護実習室を練習等のために利用することができます。そのことが徹底されていなかったようです。そのため、学生の皆さんに迷惑や負担をかけてしまいましたことをお詫びします。使用に際しては、大学側の保安管理に加えて、21 時には退出できるよう学生の皆さんにも戸締りやガスの元栓を締める等の安全点検の注意を促し、気持ちよく使えるよう働きかけていきます。

(質問) **助産師をとるにはやはり 4 年終了後になるのでしょうか？親も勉強不足でわからず、教えていただけると助かります**

(回答) 助産師教育を 4 年間の中で行っている大学もありますが、助産師教育は、より専門性の高い知識・技術が求められるため、本学では、4 年間の看護基礎教育を終えた後(卒業後)、1 年の大学専攻科での教育を行っております。その他、大学院修士課程(2 年間)で、助産師教育を行っている大学もあります。どのような進路を選んだらよいのか、学生さんの希望を聞きながら相談に応じておりますので、母性看護学の教員等にも遠慮なく、ご相談ください。

(質問) **・国試に向け、合格対策をさらに強化してほしい**

・昨年の卒業生に聞きましたが、国試対策の講義の費用を別に払うことに疑問を感じます。授業料を支払っているのに、その中で何とかできないのでしょうか。

(回答) 本学看護学部国試対策としては、いくつかの取り組みがあります。そのうち看護学部教員による以下の国試対策の講義に対する費用はいただいております。

3 年次から国試ガイダンスを開始し 4 年次まで継続して、①国試関連の情報提供、②国試に向けた学習のサポート、③学生さんとの個別相談を行い、定期的に学内模試(看護師学内模試 8 回、保健師学内模試 2 回)を実施しています。また、4 年次生の 10-12 月には、正規の授業外に看護学部教員が過去の国試問題の解説等を行う国試勉強会(講義等計 30 コマ)を開催し、国試学習で生じた疑問・質問に対して各教員が根拠を踏まえて丁寧に対応する等のサポートを行っています。

他方、4 年次には全国規模で国試と同数の問題が出題される業者模試を利用して、学生さん各々が自らの学力を把握しながら国試対策に取り組むよう指導しています。看護師 5 回、保健師 4 回計 9 回の模試の費用 21,000 円については、その 1/4 を大学後援会費からの援助費を充当し、学生さんの個人負担額は 16,000 円(2014 年度の金額)です。

その他の有料の講義は、国試勉強に不安を感じる学生さんが個人的に参加している「夏季・冬季休暇中の外部講師(国試対策専門予備校等の講師)による国試講習会」だと思われます。

国家試験は、看護専門職として一定レベルの知識を持って判断できるかを判定する試験です。確実な知識・技術を習得した看護専門職となるために、低学年から継続的に学習する習慣を身につけて、計画性を持って課題に取り組むことや、実習を通して看護の判断力を高めることが、国試合格に繋がる確実な道です。国試対策の活動主体は、受験生一人一人です。合格に向けて教員・職員連携して国試支援に取り組んでおりますので、保護者の皆様も学生さんが主体的に学習に取り組むよう、今後ともご支援をお願いいたします。

【社会福祉学部】

(質問) レポート課題に教員からのコメントがない。授業が分かりにくい内容がある。

(回答) 専任教員、非常勤講師にかかわらず、わかりやすい授業展開を行うように心がけます。その為には、授業準備に時間をかけ、わかりやすいレジュメを作成し、パワーポイントやビデオ（DVD）等の視覚教材や ICT を活用してわかりやすい授業を行います。回答が必要なレポート課題に対して必ずコメントをするようにします。

(質問) 実習先が家から遠かったりして交通手段がないことがある。交通が不便な場所は負担がかかるので配慮していただきたい。

(回答) 社会福祉学科：

学生さんに事前に実習先の希望調査を行っていますが、限られた実習先の中で個々の希望をすべてかなえることはできないこともあります。できるだけ希望する実習先で実習が行われるよう組み立てていきたいと考えています。

介護福祉学科：

実習前に学生さんにアンケートを取り、家から通える実習先等、交通手段を考慮した配置にするようにしています。実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲという3段階の実習を通してできるだけ、学生さんにとって実習先の便利さが公平になるように配慮をしています。

●社会福祉学科

(質問) 国家試験に向けて補習など対策授業をしてほしい。

(回答) 国家試験対策委員を各学科の教員で組織し、3年次生の秋セメスターから国家試験に関するガイダンスを行っています。4年次からは外部の講師による対策講座を行っています。この対策講座の出席率があまり高くないことが問題だと思っています。是非この講座に積極的に出席し、模擬テスト等を受けてほしいと思います。

●介護福祉学科

(質問) 国家資格対策講座をしてほしい

(回答) 対策講座は社会福祉学部として外部の講師による対策講座を実施しています。2014年度からはそれに加え、介護福祉学科独自に国家試験対策委員を決め国家試験対策を強化します。また学生さんの試験に対するモチベーションの保持を図るために、学生さんと教員の懇談会を行っています。その中で、どのような応援が必要なのか、学生の皆さんは何を望んでいるか等を聞いて対応していきます。今年度は3年の秋セメスターから対策講座を開講して早い時期からの試験対策を行っていきます。

●こども教育福祉学科

(質問) 学生の人格や意欲を挫くような教員の言動があったと聞いています。改善をお願いします。

(回答) 学科会議において、各教員が教育者にふさわしいか自己の言動を振り返るよう学科長から指導を行いました。学科会議ごとに「教育の働き」について教員相互に学ぶ時を持つようにします。

(質問) 実習先での保安はどうなっているか？

(回答) 実習先施設との懇談を行い、安全・安心の環境の下に実習が行えるようにいたします。

【リハビリテーション学部】

●理学療法学科

(質問) 教授からの要求が厳しいと聞きます。課題の出し方、グループワークの進め方を検討してほしい。

(回答) 本学は、大学生としての教養を学ぶとともに、国家資格を取得する専門職を養成する教育機関でもあります。そのため、よりハイレベルな講義を展開できるよう、各科目とも様々な工夫がされています。準備学修をしやすい状況を作るために、今年度から、授業科目の初回の講義で講義15回分のアウトラインを提示します。理学療法学科の講義では、アクティブ・ラーニング(学生の能動的学修形態)の実践が行われています。これまでの学修形態では経験の少なかったグループワークや課題学修を中心に講義が展開されることも少なくありません。各科目のグループを固定化して、学生間の負担量の均衡を図ります。

(質問) グループワークが重なり、体調不良を訴える学生が多いと聞いています。改善をお願いします。(2 年次生)

(回答) 2012 年度も同学年の保護者の方より、同様のご指摘をいただきました。その後、2013 年度は学生の皆さんの学修スケジュールを考慮し、教員間での課題配分等を調整しています。しかし、2 年次生においては秋セメスター後半に体調不良の学生さんが多い状況でしたので、早急にアドバイザーを中心に、健康管理センターとも連携して体調不良の訴えのある学生さんの状況把握に努めています。

2014 年度は、学修課題の調整と、各学年および各学生の特徴を詳細に把握し、体調不良等が出ないように予防していきます。ご家庭でも、気になるようなことがありましたら、いつでも教員に連絡をお願い致します。

(質問) ・実習地を家から通える場所にしてほしい。(1 年次生)

・実習場所へ通うにあたり、遠い場所については、宿泊等検討してもらいたい。(3 年次生)

(回答) 臨床実習施設は、学生さんの精神的負担ならびに保護者の皆さんの負担をできる限り軽減できるよう、①レオパレスでの宿泊数をできる限り少なくすること、②実家等を考慮した施設配置を行うこと、③通学時間を 90 分以内に抑えること、④指導者に恵まれ、有意義かつ勉強になる実習地であること、等をもとに実習配置を行っています。

(質問) 実習地によって課題のバラツキがあるようです。睡眠時間も少ない学生もいると聞きます。学生にとって良い勉強の場であってほしいと思います。(3 年次生)

(回答) 実習施設が多いことから、ご指摘のような課題等の学生間のアンバランスも生じている状況です。このアンバランスを改善するように、臨床実習指導者の方々との打ち合わせ会議や、実習マニュアルの改訂を毎年行っており、年々改善していると思われます。今後も、臨床実習の遂行状況を施設毎に把握し、より良い学修環境が構築できるよう、実習施設との連携を強化していきます。

●作業療法学科

(質問) 臨床実習に関する情報を保護者にも事前に知らせて欲しい。(3 年次生)

(回答) 臨床実習先は実習開始の約 2 か月前に決定します。実習に関する必要な準備につきましては、保護者の皆さんにもお伝えするよう指導しています。実習前には、学生さんに事前オリエンテーションの流れと臨床実習ガイドブックを用いた実習前指導を行っています。その中で「保護者の皆さんにお伝えすべき内容」を整理して学生さんに周知し保護者の方々にも伝えるよう改善致します。

(質問) 看護学部のようなグループ実習のシステムはないでしょうか。実習先に教員がいないことが不安です。(4 年次生)

(回答) 作業療法に限らずリハビリテーションは個別担当により進められます。卒業後に専門職業人として自立するためには、臨床実習においてもマンツーマンの指導を受ける必要があります。そのため、リハビリテーション学部の実習では、教員が実習地に常駐するのではなく、臨床実習指導者が個別に学生を担当する形態をとっております。ただし、担当教員は常にメールや電話により、臨床実習期間中の学生さんの実習遂行状況と健康状態について把握し、必要が生じれば適切にサポートしています。また実習期間の半ばには直接実習地に訪問して、本人および臨床実習指導者より話を聞いていますので、どうぞご安心ください。

(質問) 実習期間中に就職募集のはじまる施設があるが、対応できるようにして欲しい。(4 年次生)

(回答) 作業療法士の就職活動は、4 年次生の臨床実習が終わる 8 月から開始することが一般的なタイミングです。一方、公的機関の就職試験は 6 月頃に設定されている場合がありますので、その際は実習期間中でも就職試験が優先されるよう実習地に配慮してもらっています。また試験に伴う必要な書類の準備や、本人が対応することが困難な内容については、就職センターやアドバイザーが具体的にサポートしています。

(質問) 体調不良の際にサポートしてくれる場所、制度が欲しい。(2 年次生)

(回答) 本学における体調不良や心身の健康に関する相談機関として、「健康管理センター」と「学生相談室」が設置されています。健康管理センターでは、怪我や気分が悪くなった際の応急処置、心身の健康に関する不安や悩みの相談等に応じます。学生相談室では、自分自身の性格、人間関係、精神的な気分の落ち込み等、心理カウンセラーによる専門的な相談が受けられます。なお相談時間等の詳しい情報は本学ホームページで確認することが出来ます。教員は、これらの相談機関とも連携し、プライバシーの保護に注意をしながら、学生さんへの身体的精神的な丁寧なサポートを行うよう心掛けています。

●言語聴覚学科

- (質問) 学生への指導の仕方が気になります。怒られたと受け取り、落ち込んでしまうことがあります。
- (回答) 教員が良かれと思って行う指導と学生さんのとらえ方に隔たりがあることがうかがえます。今後は学生さんの心理状態や反応を考慮しつつ、指導時の言動や伝え方にも配慮した指導を行っていきます。また、学部長が学生さんの率直な意見を聞き、それを教員の教育活動に活かしながら、教育指導の改善に取り組んでいます。教員の教育指導で疑問やご意見がありましたら、学部長、学科長に申し出てください。
- (質問) 言語聴覚士になりたいと思い入学しましたが、「自分は言語聴覚士には向いていない」といった言葉が聞かれることがあります。そんな学生に対し、言語聴覚士という職業の素晴らしさややりがいを持たせられる授業・指導をお願いしたいと思います。(3 年次生)
- (回答) 入学時の漠然としたイメージから具体的に言語聴覚士になるための科目を学ぶにつれて領域の幅広さや奥深さを知り、授業についていくことが大変と感じたり、また臨床実習で実際に患者さんと接する中でコミュニケーションや臨床技術の難しさを感じたり、自信を失うこともあると思います。おっしゃる通り言語聴覚士という仕事の素晴らしさを早期から伝えていくことは大切なことと考えています。そのため、言語聴覚士の仕事を知るカリキュラムとして、1 年次生のうちから現場の言語聴覚士の先生や言語聴覚士による訓練を受けた経験があるお子さんの保護者から話を聞く機会を設けたり、1 日体験実習として施設見学を取り入れる等を行っています。また自信を失いかけた場合は、教員が学修支援や心理的なサポートを行いますので、連絡していただければ幸いです。
- (質問) 先生方は個々の学生に目を向けてもらってありがたいのですが、ほめて育てられたこの世代の子供にとっては厳しく感じられることもありかわいそうになります。(4 年次生)
- (回答) 「個々の学生にきめ細かい対応をしていただき、感謝しています」というご意見がある一方で、それを厳しいと感じる学生さんもいます。できるだけわかりやすく教員の真意を解説し、学生さんの反応を見ながら消化不良や負担とならないよう適切に指導することを心がけていきます。また保護者の方とも連絡を取り、理解と協力を得ながらすすめていきたいと思っていますので、お気づきの点がありましたら遠慮なく申し出てください。
- (質問) 言語聴覚士の国試合格率の低さは原因があるのでしょうか。また学校側はそれに対し対策を立てているのでしょうか。(3 年次生)
- (回答) 言語聴覚士の国家試験の合格率は、今年度の全国平均では 82%で、新卒の大学平均は 89.9%と決して低いわけではありません。本学の合格率は、95%と高い合格率となっています。本学の言語聴覚学科では、4 年次の定期的な模擬試験に加え、個別指導と重点的な国試対策特別講義等の支援態勢を取り指導しています。
- (質問) 海外研修が充実していない。(1 年次生)
- (回答) 2013 年度より、アメリカ言語聴覚学研修としてハワイ大学マノア校への研修を開始しました。2013 年度は 11 名の学部生と大学院生が約 1 週間の研修会に参加し、ハワイ大学で行われている様々な言語聴覚障害の教育に触れ、大きな収穫を得てきました。今後も海外研修を積極的に進めていきます。

(2) 学生支援

【健康支援】

- (質問) 学生だけでは解決できないことがある。学生からの悩みを引き出したり、相談し易い環境の充実をさらにお願したい。少人数のクラス制などできないか？
- (回答) 本学では、学生さん 1 人ひとりにアドバイザー教員を配置し、様々な相談に応じています。皆さんがこの制度を利用し、より気軽にアドバイザー教員に相談できるよう、昨年度は全学をあげてアドバイザー制度を見直し、悩み等を早期に発見するための具体的な方策について各学部で検討を重ねてきました。そのひとつがアドバイザー教員のオフィスアワーの周知徹底やアドバイザー教員を通じた学生同士の交流機会の提供等です。
- 学生相談室では、自発的に相談に訪れる学生さんへの対応のほかに、悩みや問題を抱えている学生さんに対し早期に対応できるよう、全ての学生さんに学生心理 (UPI) 調査を実施しています。また、アドバイザー教員と連絡を密にし、授業の様子等から何か悩みがあるのではと思われる学生さんに学生相談室を訪れてみるよう個別に呼びかけを行っています。

(質問) インフルエンザの予防接種について

- ・任意で大学内でしてもらいたい。
- ・期限を決めて、接種することを伝えてほしい。

(回答) 例年 10 月に近隣の医療機関の協力を得て学内でインフルエンザのワクチン接種を行っています。学生の皆さんにはメールでお知らせするとともに、学内の掲示でも接種を勧めています。2013 年度は 374 名が接種を受けました。ぜひこの機会を利用してください。

【防犯】

(質問) ロッカー室で盗難が発生している。

(回答) ロッカー室の出入口は、オートロックで常に施錠されています。学生は暗証番号を入力して出入りしています。ロッカーで物がなくなった学生さんに事情を聞くと、個人ロッカーの上に置いてあった、ロッカーの鍵をかけていなかった、時間がなかったのでダイヤル錠 4 桁のうち 1 桁しか回していなかった等の回答が返ってきます。

ロッカー室内の盗難については、警察に通報し捜査に協力するだけでなく、個人ロッカーの施錠の徹底を促す注意掲示をロッカー室内や学生掲示板に貼付したり、ダイヤルにカバーをして他の人に暗証番号を見られないようにしたりして、本学としても被害がなくなるよう取り組んでいます。これまでの被害状況から、施錠時のダイヤルロックを確実に行うことがロッカー室内の盗難に対する一番の予防策であることがわかっています。被害にあわないためにも 4 桁のダイヤルを確実に回し、暗証番号を解読されないようにする等学生の皆さんにも注意をお願いします。

(質問) 防犯等や防犯カメラの設置は引き続き強化していただき、安心安全な大学作りをお願いします。

(回答) 2009 年度から実施している外灯の設置を今後も継続し、優先度の高い場所から新設していきます。また、新設された第 3 駐車場への防犯カメラ設置も完了しました。

なお、周辺の道路については、大学で設置できないため周辺自治体に設置してもらえよう働きかけています。

【奨学金】

(質問) 受給できる奨学金についてもっと知りたい

(回答) 保護者の方も閲覧できる学生サービスセンターのホームページでは、本学の学生さんが受給できる各種奨学金の案内やよくある質問に対する回答を掲載していますので是非ご覧ください。

(<http://blg.seirei.ac.jp/service/financialaid.html>) 奨学金に関するお問い合わせは、学生サービスセンター（電話：053-436-1125 e-mail: service@seirei.ac.jp）へお願いします。

なお、菅野・太田・長谷川奨学金、大学同窓会・後援会奨学金、M.H. 奨学金、聖隷奨学金等の本学独自の奨学金のほか、日本学生支援機構奨学金や静岡県社会福祉協議会介護福祉士修学資金については、毎年 4 月に保護者の方にも出席していただける説明会を実施しています。どうぞご出席ください。

(3) 就職支援

(質問) 就職に対する支援・指導ではありませんが…。進学を考えているのですが、そのための準備等、どうしたらよいか相談に行ったところ、答えていただけなかったとのこと。進学に関しては、相談にのっていただけないのでしょうか？

(回答) もちろん進学についても支援をしていますので、就職センターに相談してください。

進学の準備について、2 年次生は看護専門科目も増えてきますので、毎日の学習を大切にしてください。

(質問) 3 年次生の娘に「もう行きたい HP を決めてないのは遅い」と言われたようですが、学生に就職までの流れや、相談は学校の方から個別に行なっているのでしょうか？自分で探して就職先を見つけようというのでしょうか！相談に行った学生にのみ指導があるのでしょうか？不満です。

(回答) 全体でのガイダンスでは、就職活動の全体像、大学の支援行事等を説明しています。看護学部では、個別の面談を全員と行い、学生さんの希望にそって支援をしています。

遅い、早いということはありません。いつでも相談してください。

- (質問) ・活動の流れが把握できていない点に満足していない。
・就職に対する支援が遅く思える。
・“学内での就職説明会や講座の情報はあがるが、学外の就職説明会の情報がない。保護者に対して就職に関する情報が届いてない。”
・就職活動への支援が見えてきません。希望の就職先に就職できるか心配しています。よろしく御支援をお願いします。
・まだ日の浅い学科なので、就職に関する情報も少なく、四大を出ても、本当に就職できるのか心配、子供も、とりかかりが遅いのではないかと考えている子とそうでない子との差が大きすぎる感じがします。大まかな情報は学報にあっても、細かな情報も親としては知りたいです。
・就活は本人まかせだった為、具体的な年間を通しての流れがわからなく、不安を感じました。4年次に入ってからではなく3年次、2年次の保護者会以外でも、もっともっと情報提供してほしい。
・子供の言葉だけを聞いているので、一方的な感想になってしまいましたが、もっと先生に相談してみればと言ったのですが、先生も私一人だけではないし、忙しいからと相談するのが悪いと言っていたのが気になりました。

(回答) 3・4年次生には4月のオリエンテーション時に「就職ガイドブック」を配布しています。この冊子の中に、就職活動の全体像、大学の支援行事、履歴書の書き方、採用試験対策等、個々の事例も載せて説明してあります。保護者の方には、7月の保護者懇談会において学年ごとに詳しく説明しています。また、大学報に就職支援の一部を掲載しています。不十分な点もあると思いますので、不明なこと等は、就職センターにお電話やメール（電話：053-436-7233 e-mail: syuusyoku@seirei.ac.jp）で問い合わせてください。

なお、社会福祉系施設の求人は、3年次終わり～4年次秋頃、遅くは2月にあり、多くの学生が企業に就職する一般の大学と比較すると、就職活動も遅くなります。しかし、本学部では、昨年も100%の就職率を達成しています。学生さんの就職活動を、温かく見守ってくださるようお願いいたします。

(4) 施設・設備

【食堂・売店】

- (質問) ・学食の充実をして欲しい（広さ・値段・味・栄養バランス・営業時間・朝食）。
・売店の充実をして欲しい（広さ・人の流れ・営業時間）。

(回答) 2号館2階の学生ホールおよび5号館2階の学生ラウンジの新設により昼食時の混雑は以前より若干緩和されましたが、今後も継続して使用しやすい居場所づくりに努めます。

売店は2号館2階に移転後、売場面積は約1.5倍に広がり、取り扱う商品の種類・量等も充実しましたが、導線が悪く利用しにくいとのご意見がありますので運営業者に改善を申し入れます。

食堂の運営も外部の業者に委託しています。皆さんのご要望にすべてお応えできるとはかぎりませんが、寄せられた意見をもとに可能な範囲でのご要望に沿えるよう食堂運営者と大学で話し合いを継続していきます。

朝食メニューについては以前試行しましたが、利用者が非常に少なく継続することができませんでしたことをお知らせいたします。

【駐車場】

- (質問) 許可を受けているのに、第1・第2駐車場が満車で停められないことがある

(回答) まず、許可を受けながら指定駐車場に駐車できなかった方には、ご迷惑をおかけしたことをお詫びします。この4年間で自動車通学希望者が約100名増え、今後もさらに増加することが予測されることから、新たに大学東方徒歩5分の場所に72台分の駐車場を確保し、「聖隷学園第3駐車場」として2014年5月中旬から利用が始まりました。これまでの混雑は大幅に緩和される見込みです。

また、回転灯や防犯カメラを設置したり、駐車場から大学までの道路に順次街灯を設置したりする等して、安全確保に努めます。なお、第1・第2駐車場の利用ルール同様、第3駐車場も朝の通学時の渋滞緩和と事故防止のため、平日の9時までは右折入場を禁止しています。ご協力をお願いします。

この報告書についてのご意見、お問い合わせは下記までお寄せください。

聖隷クリストファー大学 後援会

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町 3453
電話 053-439-1400 FAX 053-439-1406